

河内 克也議員



加工施設整備と流通対策は

河内議員

わが村は農業の村。所得向上、新規就農者を増やすことが至上命題。議会では農業振興のため、多くの先輩議員が質問、議論を重ねてきた。

6年前、先輩議員質問時、村長は、「加工施設が老朽化しているので、あそ望の郷一室を改修する整備計画を進める。各農産物の産地化と経営安定を図るため、地産地消と6次産業化に取り組む」と答えた。

①答弁から6年経過。村内農産物加工施設の状況と課題をどう認識し、6次産業化推進と村民の多くが利用できる施設となるための対策は。

②流通のステークホルダー*が情報を相互に共有できていない。村の安全で美味しい農産物が欲している消費者に届かない課題有り。安定的食材供給地となるため現状と課題、具体的対策は。

民間業者に任せるのが現実的

村 長

①現在、加工施設は、あそ望の郷内にみそ加工施設があり、使用料を払えば誰でも利用できる。ただし、販売を目的とした加工施設は保健所の許可が難しい状況で、この施設の利用者は自家用みその製造が主。他方、民間では加工施設を有する施設が多くある。品質・衛生管理を考慮すると、民間加工業者にお任せするのが現実的だと考えている。民間による開業相談の際は、国・県の補助金の誘導等、対応していく。ジビエ加工施設は、荒廃地対策でも有効だと考え情報収集に努めている。村として施設の方向性をできるだけ早くお示しできればと考える。

②販路拡大は、環境保全農業推進協と農業みらい公社が連携し、村内の施設で地元の農産物を使う、マッチングシステム試験導入等行っている。また、ホテルなどへ、農産物のPRを進めている。物流等も課題で、現在試行的取組を行っている。

河内議員

6次産業化推進のため、村民が利用できる加工場は必要。流通面は変革の必要性も高く、新しい形の流通仕組み検討が必要。担当課を中心に加工施設プロジェクトチーム、流通専門チームを発足し、加工場の機能検討、技術指導、販売目標を定めるなど、行政が本腰を入れてほしい。

選挙公報、準備状況は？

河内議員

3年前「村の選挙公報発行」の質問を行った。

- ・公報は村民へ平等に候補者状況を届ける有用手段
- ・村民から公報発行がないことに、何を基に比較判断、投票すればいいのかとの意見が多くあった
- ・日数等課題はあるが民主主義の入口、根幹の考えから公報発行は最も重要等……の質問内容。

選挙管理委員会からは、期間が短く、多くの課題をクリアしなければならないが、選挙期間中、公報発行の問い合わせが多かった。

「村民の発行要望に応じていく」という前向きな答弁であった。

任期満了で、来年2月に執行される村長選、村議選に向けて、選挙公報発行の準備状況は。



問題点を整理検討中

選挙管理委員会書記長

質問を受け、条例制定の内容を選管で検討している。選挙運動期間が5日間と短く、公報は公選法の規定により投票日の2日前までに登録された全世帯へ配布する必要がある。

発行には原稿取りまとめ、掲載順決定、編集印刷、配達完了まで短期間で行う必要があり厳しいスケジュールとなる。実施できるか問題点を整理検討している。選管としては、有用な手段として公報が各家庭に届けられることが最善であると考えている。最終的には条例案などを議員に示し、来年の選挙時に実施するかどうか判断いただきながら、その結果を踏まえ条例制定の手続きを進めたいと考えている。

河内議員

今回の質問まで発行準備対応がなされていなかったと感じる。民主主義の熟度を測るには、公平・公正な選挙、政治の説明責任、村民の政治参加等が指標となる。

当たり前に民主主義の村として胸を張れるよう、村民の代表として「公報は必要」と最後に再度申し上げる。

※ステークホルダー = あらゆる利害関係者